

子ども霞が関見学デーで「体験ふしぎ樹木」出前授業を実施しました

(平成 29 年 8 月 2 日文科省会議室にて)

今年も以下の日程で、文科省にて出前授業を行いました。参加者は小学生約 20 名。一応小学生から高校生までを募集対象としましたが、実際に参加したのは、小学校低学年と幼児（未就学）です。今回は小さい子も含めた幅広い年齢層でも楽しめるプログラムを用意しました。

時間は 45 分間です。長机を 3 箇所において、3 つのグループに分けて、3 つのプログラムを 12 分おきに順番に体験してもらいました。保護者は、後ろで椅子にすわり見学することになっていました。

実際の木の枝や葉、実を持ち込んで、目まぐるしく次々に体験してもらったのですが、終了後のアンケートの 5 段階評価では、なんと参加した子どもたち全員が「5」：とても楽しかった」と答えてくれました。ありがとうございました。これをきっかけに樹木に興味を持ってくれたらうれしいです。

<プログラム紹介>

タイトル：体験！不思議樹木～樹木と暮らしの関わり

日時：2017 年 8 月 2 日 13：00～13：50

1. アオダモの蛍光ペン

モクセイ科のアオダモという木は不思議な木。なんの変哲のない水道水にブラックライトを当て、そこに枝を入れると青い蛍光物質が出ているのが見えます。薄暗い場所でないとよく見えません。ブラックライトを外すと青い色は見えなくなります。ブラックライトがなくても紫外線で光るので、野外の木陰で少しみることができます。昔の人はそれを知っていて「アオダモ」と名付けたのです。

アオダモの枝を水につけて、紙に書いてみましょう。一見なにも書いてないように見える紙がブラックライトを当てると、絵が浮かび上がります。秘密の暗号を書いてもいいかもしれません。出が悪くなったら先を剪定ハサミで切り、水をつけながら書いてください。この青い蛍光物質がなぜ出るのかは、わかっていません。アオダモの他にも青い蛍光物質を出す木があります。アオダモと同じモクセイ科のトネリコの仲間、オリーブも少し出ます。トチノキの仲間も出します。ほかにもあるかもしれません。シマトネリコやアオダモは最近庭によく植えられますので、剪定などしていたら、枝をもらってきて試してみてもはどうでしょうか？ただし、冬はあまり出ないよう

です。





2. 木の実の石鹼あそび

ムクロジの実は、中の黒い種は羽子板の玉に使われます。その黒い種の外側の皮を使います。500mlのペットボトルに100mlぐらい水を入れて、皮のかけらを入れてシェイク！すぐに泡立ちます。

小さな布に、クーパーや炭で汚れをつけて、ペットボトルに入れてシェイクして洗濯します。昔はクーパーとか無かったから、どんな汚れがあったのかな？木の实でも割と洗浄力があり、結構落ちます。



エゴノキも洗剤になる実で、若い実の皮の部分が泡立ちます。

他にも、トチノキの実やサイカチの実のさやが洗剤として利用されていました。ムクロジやサイカチが植えられている場所は、昔の人たちがおしゃべりしながら洗い場をする場所だったのかもしれません。



3-1. ムクノキの葉でヤマザクラを磨く

ムクノキの葉表はざらざらしています。昔はこの葉っぱを乾かして、茶筒などの樺細工の仕上げに使っていたそうです。茶筒に使われる樹皮はヤマザクラです。昔の人はヤマザクラの樹皮の美しさを愛で、利用してきたのです。ヤマザクラの樹皮がついた木片をムクノキの葉で磨いてみました。ムクノキの葉はめが細かいので、サクラの樹皮は赤っぽくなり、とても滑らかな手触りになります。



3-2. 葉っぱに字を書く

タラヨウは別名「字書き葉」とも呼ばれます。葉裏にツマヨウジで字を書くと、だんだん黒く変化します。葉に含まれる酸化酵素がタンニンに働き、黒く変化するのです。

他にも字が書ける葉っぱはたくさんあることが分かっています。

当日、トウネズミモチでも試してみました。

